平成２６年第５回大仙市教育委員会定例会会議録

平成２６年第５回大仙市教育委員会定例会を平成２６年５月１９日（月）午後２時から大仙市立大曲図書館３階視聴覚室において開催した。

出席委員

物　部　長　仁
鈴　木　直　樹
富　樫　佳　典
伊　藤　　良
竹　原　まゆみ
三　浦　憲　一

説明員

教育指導部長	小笠原　　晃
生涯学習部長	滝　沢　清　寿
教育総務課長	佐　藤　彰　洋
教育指導課長	千　田　寿　彦
教育研究所長	須　田　百合子
生涯学習課長	山　谷　喜　元
文化財保護課長	細　川　良　隆
スポーツ振興課長	伊　藤　優　俊
学校給食総合センター所長	杉　山　光　行
総合図書館長	高　見　正　信
総合市民会館長	大　河　洋　子
花館公民館長	千　葉　信　夫
神岡中央公民館長	石　山　雄　康
西仙北中央公民館長	嵯　峨　耕　咲
中仙公民館長	草　薙　祐　喜
協和公民館長	佐々木　　稔
南外公民館長	佐　藤　政　利
仙北公民館長	小　松　　徹
太田公民館長	安　達　成　年

書記

教育総務課参事	藤　井　吉　美
教育総務課主幹	田　口　広　龍

付議案件

(1)　議案第29号　奨学資金運営審議会委員の委嘱について

(2)　議案第30号　給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱について

物部委員長
（開会の挨拶）
（書記の指名）
（前回会議録を承認することについて、会議に諮り、承認された。）
早速、教育長報告に入らせていただきます。三浦教育長、お願いいたします。

三浦教育長
（資料により教育長報告を行った。）

物部委員長
ありがとうございました。次に各部署から事務事業・行事報告をしていただきます。教育総務課長、お願いします。

各課・所・館長
（資料により教育委員会各部署から事務事業・行事報告を行った。）

物部委員長
以上、教育長報告をしていただきました。
ただいまの報告につきまして、委員の皆様から御質問ございましたら、お願いいたします。

富樫委員
２点ほど、お尋ねしたいこととお願いがあります。５月５日の魁新聞、各新聞紙に取り上げられましたが、子どもの数が段々に減っていくということで、秋田県が最下位の10.79％、沖縄が17.67％ということで、びっくりした数値ですが、大仙市も秋田県の中にあって、似たような数値になっているかと思いますが、このままで減っていくと大変なことですし、子どもの教育ということで、昔から家庭を大事にする。私も農家なので、昔から親に農家はばかくさいからやるなとか、農家の家には嫁になっていくなとか、そういう教育を受けておりましたし、やはり秋田県もここに行けば仕事ができる。ここに行ってはだめとかでなく、秋田県の大仙市に住んでいれば、自然も豊かだし、時間もゆっくり過ごせるというような学校教育で、逆に沖縄は学力が低いですが、少しでも沖縄の率の多い所の現状を学びながら、地区でも子どもがいなくなれば、地域も元気がなくなりますので、どうか、学校教育指導部でも実情を踏まえながら、子ども達に秋田県の良さや大仙市の良さをアピールしていきながら、少しでも、教育委員会だけではなく、児童家庭課、男女の結婚のこともありますが、大仙市を挙げて取り組まなければならない課題だと思いますので、子ども達にアピールしていただけるようにお願いしたいと思います。後でもよいので、大仙市の現状、将来的な子どもの人数とか、そうなれば学校再編等が必要になってきますので報告をお願いいたします。
もう１点ですが、郡の陸上大会が６月２０日から行われますが、近くに西部学校給食センターが建てられておりますが、駐車場があり大丈夫だと思いますが、駐車スペースは少

なくなっておりますので、駐車場の車の誘導をスムーズにやっていただいて、応援に来た保護者が困らないように、誘導をしっかりやっていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

物部委員長
　少子化に対する件については後で答弁することで、陸上競技大会等の件についての安全対策はどうですか。教育指導部長、お願いいたします。

小笠原部長
　郡陸上競技大会が明日から始まりますが、今日会場を準備をしているということで、先程、校長とも話をしましたけれども、工事関係につきましては、工事関係者と事前に先月から打合せをしまして、大型車とか工事関係車両は大会中は走らないということ、中の工事だけをきちんとやるということで、生徒が通るときの時間帯には、大型車等は通らないという約束で工事を進めていただいておりますし、明日の駐車場等につきましては、西仙北中のＰＴＡ等の協力を得ながら、駐車場の整備等を進めていただいております。事故がないようにきちんと進めていただきたいなと思います。
　それから、一つ目のことについてですが、少子化ということで調べさせていただきましたが、大仙市の全体の人口が、合併当時の平成１７年度では97,000人か98,000人くらい、今年は87,000人くらいで、10,000人くらい減っている現状です。児童生徒数に限りますと、１７年度と２６年度を比較しますと、児童数がマイナス1,016人、生徒数がマイナス673人で合わせて1,689人ほど減ということで、10,000人に対して１割５分から６分くらいまで減少しているということです。この後の見込みとしましては、ただいま出生されている子ども達の数を基にして考えますと、平成３２年までの見込みでいきますと、この後２６年から３２年では小学生はマイナス561人、中学生がマイナス161人ということで、前提ではないですがまだ減っていく傾向です。平成２８年度の小学生は前年度比較でマイナス38人ですが、ほかの年は約100人ずつ減っていくイメージです。中学生は平成３１年度が29人でここだけがプラスになっており、ほかは前年度比較で約30人前後が減っていくイメージでおります。先程、富樫委員からありましたが、減っていくというこの現状を止めるのは社会全体の問題かと思いますけれども、ふるさとに誇りをもっていくということで、沖縄の糸満やいろいろなところから視察に来ておりますが、教育長がよくお話しているのが、ふるさとで貢献するのも当然だけれども、ふるさとから出てもふるさとをよりどころに、ふるさとに貢献しようとする子どもを育てる。ふるさとに誇りをもてる子どもに育てるということで、学校では取り組んでいただいているということですので、委員がお話しされましたように、私どももそのような方向で努めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

物部委員長
　三浦教育長、どうぞ。

三浦教育長

沖縄に実際行ってみて若い人が多いです。こちらから入っていく人が多いなという感じがします。どこに勤めているのか。自衛隊もありますし、米軍基地もありますし、公務員が多いです。交付税が相当国からいっているという感じがします。財政的に恵まれているということで、働く場所が結構ありますし、若い人がこちらから入っていくということを感じました。それから、学校も減っていかないし、ただし、全国から入っていくということで課題も多いというお話しもあります。確かに若い人は多いなと感じます。この前のニュースで若い女性が出ていってしまうという、その課題が非常に多いということがありましたので、若い人を何とか残す作戦とかあれば、職場とかも含めてあればよいなと思います。

物部委員長
この頃のことばの表現では、消滅という言葉が加わってまいりました。市町村が消滅するという衝撃的な表現が出てまいりました。秋田県もいよいよ知事を先頭に少子化対策問題に本腰を入れておるようですけれども、大変大きな問題になっていくのではないかと思います。今お話しのように教育の原点は、やはり、ふるさとに誇りをもつ子どもを育てていくということが、これが一番の原点であろうと思いますので、そういうことで共通の認識をもって、頑張ってまいりたいなと思っております。

伊藤委員
今のレベルの人口減少を続けると、後数百年で日本の原住民がいなくなるでしょう。北海道に行くと、中国が凄く進出してきて土地売買をしていることなど、もし、こういうことを野放しにしておくと日本の原住民がいなくなって、全部外人になって人口はある程度保たれるだろうという話があります。現在は、どうしても夫婦二人で、二人の子どもをもっていかないとずっと減るわけですから、確か３００年くらいではないでしょうか。２５年を１世代とすると、後１０何代でそんな感じになるだろうという試算が以前からされております。悲しいことになるかもしれません。

物部委員長
学校だけではなく社会の全ての面が人口減で、疲弊して目に見えてきております。やはり基本はしっかりと見据えて、教育を頑張っていかなければいけないと思います。

物部委員長
鈴木委員、何かございませんか。

鈴木委員
例えば、ふるさとの特性といいますか、勉強する機会とかは近年増えてきていますし、性教育というものも、昔みたいに隠さないで公に学ぶ機会が増えてきていると思います。今のような少子化で国が危ういみたいな話というのは、文科省ではどのように取り入れているのか。まだ全く手を付けていないのか。小中学生に対して、何か緊急的なことを学ばせるようなことがあるものなのでしょうか。

小笠原部長
　国と人口問題を考えながらという特別な教育は、まだ文科省から特化された教育的配慮はないと思っております。むしろ、秋田県が一番進んでいると思われますが、この辺が逆に発信していくような形にならないといけないのではないかと思っております。前の根岸教育長が、一番先に高齢化・少子化になっているから、先を行く教育を秋田県はやるということをお話しされたことがありました。

鈴木委員
　分かりました。

物部委員長
　大都市とかあんまり心配ないところを目安にして動いているようで、秋田県の津々浦々まで念頭に入れた教育行政は、なかなかまだ出てこないのではないかと思います。極端なことが出てこないとなかなか動かないのかなと感じます。こちらの方でいろいろなことで発信していくような、前向きの姿勢で少子化の問題・教育に取り組んでいかなければならないと思います。

三浦教育長
　全国に3,000人くらいの人口の町村があるようです。町村そのものが消滅していくところがあるようです。全国を見てみると、まだ2,000人から3,000人までの人口の町や村が多くあるようです。そうしてきた場合に、地域を超えた学校みたいな体制、そういう形が出てきかねないです。私達が言っている地域の学校とかは破壊されてしまうということで、この後、そういう状況が襲ってくるのではないのかなと思いますので、地域で若い人をもっとフォローする体制を作っていかなければならないし、しっかりと行政でもっていかないとこれから大変だなと思いますので、皆一体となって動いていかないと、産業と結びついていかないと教育だけでは逃げられてしまいますので、成り立たない状況になってくると思われます。これは日本全体の問題になります。

物部委員長
　児童生徒の減少の報告を小笠原部長から伺いますと、大仙市の将来も大変な状況になっていくような感じがします。そこをどうように対応していくかが、最大の課題になっていくのはないかと思います。

伊藤委員
　若い人の職業が豊富でないと人口は増えないということで、将来、この狭い日本の国土で、もし、この国が富むことがあるとすれば、シェールオイルとかメタンハイドレイトという資源開発による燃料資源を、全て輸入に頼っているので。これにストップを掛けられる状態になれば、日本の産業はもっと発展するだろうという、これが大きな鍵を握るかもしれないという見方が、今産業界ではされております。そうなれば仕事は出てくるだろう

し、人口も増えることです。秋田県の男鹿の北方でも、オイルを掘削してやろうとする計画で成功すれば、また商業ベースに乗れれば、また全然違った県になっていくのかと思います。

物部委員長
　人口減少と生徒数の減少は大きな問題でありますので、これからも、常に課題の大きなものとして、いろんな面で考えていかなければならないと思います。
　富樫委員、この辺でよろしいでしょうか。

富樫委員
　はい。

物部委員長
　ほかに御質問等はございませんでしょうか。

伊藤委員
　フォトコンテストは７月で締切りのようですが、相当数の応募があるものですか。

物部委員長
　生涯学習課長、お願いします。

生涯学習課長
　今受付をしておりますが、まだたくさんということではないですが。締切り間際に駆け込むということが一般的ですので。それにしても、これからカメラの講習会とか、指導者向けの講習会など、子供達からも募集しておりますので。また、改めて声をかけますので、1,000名くらいは集めたいと思っております。

物部委員長
　竹原委員、何かございませんか。

竹原委員
　先程、教育長さんから御報告がありましたことで、座間市から今日何人か来られると聞きましたが、昨年の秋まつりで野菜とか漬物とかを出しに行って、物産中仙の方々と販売とかで交流をしましたが、すごく懐かしく、交流がずっと続いているのだなと改めて思いました。

三浦教育長
　昨年、私も参加させていただきましたが、すごくつながりがあるのだなという感じを受けました。温かい感じで接してくれましたし、交流をこの後も拡大していけばいいなと思います。友好都市になりたいということで話し合いをもつそうです。

物部委員長
　ほかにございませんでしょうか。

委員（なし）

物部委員長
　教育長報告は、以上といたします。それでは、付議案件に入ります。
　議案第２９号奨学資金運営審議会委員の委嘱について、教育総務課長、お願いします。

教育総務課長
　議案第２９号奨学資金運営審議会委員の委嘱について、御説明申し上げます。
　大仙市奨学資金貸与条例施行規則第２０条第３項及び第４項の規定により、次の者を奨学資金運営審議会委員に委嘱するということで、審議会委員は、現在１１名おります。そして、第３項というものが役職等を定めておりまして、委員のメンバーは大仙市管内の中学校長から高等学校長、知識経験者の１１名の委員の方々がおられます。４月の教職員定期人事異動のため、大曲農業高等学校長、大曲工業高等学校長が変わられたことから欠員になったもので、そのために後任の校長を欠員者の残任期間に任命するいうことでございます。大曲農業高等学校長が伊東金一氏、大曲工業高等学校長が草彌康尚氏の両名を残任期間の平成２６年５月２０日から平成２７年３月３１日まで委嘱するものでございます。以上御説明申し上げました。よろしく御審議の上、御承認賜りますようお願い申し上げます。

物部委員長
　ただいまの説明につきまして、御質問等ございましたら、お願いします。

委員（なし）

物部委員長
　ただいまの説明のとおり２名の方を奨学資金運営審議会委員に委嘱することといたします。次に、議案第３０号給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱について、学校給食総合センター所長、お願いします。

学校給食総合センター所長
　議案第３０号給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱について、御説明申し上げます。平成２６年度におきまして、ＰＴＡ会長及び市職員の異動により補欠の委員を学校給食センターの設置及び管理に関する条例第７条の規定により、任命又は委嘱するものでございます。補欠委員の任期は前任者の残任期間の平成２６年６月１日から平成２７年５月３１日までの１年です。全委員の６名でございます。内訳は大曲南中学校ＰＴＡ会長佐藤彰氏、平和中学校ＰＴＡ会長渡邉一光氏、西仙北小学校ＰＴＡ会長堀江真吾氏、南外小学

校ＰＴＡ会長田口眞山氏、太田中学校ＰＴＡ会長瀬田川敦氏の５名と、市長部局の職員として大仙市総務部長佐藤芳彦氏です。以上御説明申し上げました。よろしく御審議の上、御承認賜りますようお願い申し上げます。

物部委員長
　ただいまの説明につきまして、御質問等ございましたら、お願いします。

委員（なし）

物部委員長
　それでは、議案第３０号給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱については、ただいまの説明のとおり６名の方を任命又は委嘱することといたします。
　以上で、付議案件の審議を終了いたします。
　次に、その他に入ります。何かございませんでしょうか。

教育総務課長
　６月の定例教育委員会は、移動の教育委員会を予定してございます。協和地域の和ピアを会場に教育委員会を開催いたします。視察は唐松神社を予定しております。定例教育委員会は６月２３日、月曜日午後３時に行いますが、その前に唐松神社を見学させていただくということで、市役所前にバスを準備しております。１時１５分に市役所を出発いたしまして、唐松神社に当着して３０分から４０分見学をさせていただいて、終了後、和ピアに向いまして定例教育委員会を行います。詳細につきましては、後で日程表をお送りしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

物部委員長
　６月２３日の定例教育委員会の日程ということで、委員の皆様、御都合はよろしいでしょうか。

各委員（はい）

物部委員長
　それでは、次回の定例教育委員会は、６月２３日の月曜日に市役所を午後１時１５分に出発して、定例教育委員会は３時から和ピアでということです。皆様、お揃いで唐松神社にいらしていただくようお待ちしております。よろしくお願いいたします。
　その他、ございませんでしょうか。

教育総務課長
　７月１日火曜日に教育委員会の臨時会を予定させていただきます。時間は午後１時３０分から３０分くらいです。案件は人事案件でございます。場所は視聴覚室です。よろしくお願いいたします。

物部委員長
　委員の皆様、御都合はよろしいでしょうか。

伊藤委員
　できれば、午後４時過ぎであれば都合がいいですが。

物部委員長
　午後４時３０分からでよろしいですか。

各委員（はい）

物部委員長
　それでは、午後４時３０分でお願いいたします。
　ほかにございませんでしょうか。

各委員（なし）

物部委員長
　こちらに来るときに、車から田んぼを眺めますと、田植えが最盛期に入ってきたようです。各小中学校等でも、田植え等の体験授業がこれから大いに始まるのではないかと思います。今年の豊作を祈りながら、本日の会議はこれをもって閉会させていただきます。ありがとうございました。

閉会時間　午後３時９分